

『対話』について対話する



開催日時：2022年2月6日（日） 運営媒体：Zoom

参加人数：参加者15名+運営メンバー8名

シティズンシップを考える上で欠かせない「対話」。しかし「対話」をする際、お互いに持っている知識やバックグラウンドの差、価値観の違いなどから、難しさに直面したことがある方は多いのではないのでしょうか。そして、そのような状況に直面した際「対話ができている状態ってなんだろう?」「対話をする意味はどこにあるのだろうか?」という疑問を抱くのではないのでしょうか。今回は、そんな「対話」に関する皆さんのさまざまな経験や思いをざっくばらんにご共有いただきながら、「対話」について、哲学対話形式で考えていきました。

今回の哲学対話では、参加者の皆様が安心して発言できるよう、右のような「対話のルール」を設けました。

4~5人のグループに分かれ、まずは自己紹介。学生から社会人の方まで幅広い年代の方がいる中、家庭、学校、仕事といったそれぞれのコミュニティにおいて「立場が違う人同士の中で、どう対話的な場を作っていくか」「対話する楽しさを伝えたい」「対話ができる人とできない人の境目について考えたい」といった対話に関する悩みや思いを共有していただきました。

ここから、各グループ「対話」について自由に議論を広げます。ここでは、上がった意見をいくつかピックアップさせていただきます。

対話のルール

- 1 何を話してもいい。
- 2 ゆっくり話してもいい。
- 3 **パスしてもいい。**
- 4 ジャッジしないでキャッチする。
- 5 知識ではなく、経験に即して話す。
- 6 意見が変わってもいい。
- 7 分からなくなってもいい。

お互いにたずね合うことも
おススメです!

-それって〇〇ということ?
-〇〇のこと、もっと教えて!

- ・「深い対話ができる」ということは、深い関係性があるということ。
- ・対話には「対等な関係」が必要。匿名でやりとりをする際は、対話が対等になっているのだろうか?
- ・「自分の方が正しい、より知っている」という思いが、人の意見を聞かない姿勢を生むのでは?
- ・自分のコアな部分について話すときに、安心できない相手との対話は難しい。
- ・自分自身の答えをきめて発言しない。相手に何かを言ってほしいと思わないことが大切ではないか。

各グループで出た話題を共有した後、また別のグループでの議論へ。

- ・「対話をする」には、自分の嫌な部分とも向き合うことが必要。
- ・対話とは、自分を問うていくことである。
- ・対話をしながら関係性を作ることも可能なのではないか。
- ・「関わりたくない」と思われている人たちに歩み寄ってもらうことは難しい。関係性が切れない人ならば、小さなエネルギーで関わり続けながら、時間に委ねることで「対話」をするのも大切なのではないか。

今回は特定の結論を求めず、「対話」についてざっくばらんに思いを共有していただきました。参加者の方々からは「肩書きによって関係性を固定せず、相手を理解しようとするのが大切だと感じた」「前提やテーマを設定し、問題意識を共有してから対話を行うことが重要だと思った」「自分には、対話に対する知識や技術が不足していると実感した」といった感想をいただきました。

今回のイベントが、皆様の「対話」への悩みを乗り越えるヒントとなれば幸いです。

(主な企画運営：別木、岡本、斎藤、古野、小田切、玉井、野瀬、伊藤 報告担当：伊藤)